

令和6年度米子高専技術士講演会報告



伊藤 徹
(株) エスジーズ

米子高専での技術士会鳥取県支部による講演は、2020年2月18日に伊藤前支部長が第1回目を実施した。第2回目は2021年9月30日にオンライン形式で、徳岡広昭氏、山根清香氏、伊達裕樹氏、伊藤前支部長により講演を行った。2023年2月、米子高専での講演が3回目となり、今回2024年12月が4回目である。今回は日本技術士会作成のパンフレット、技術士試験の手引きなどを参考資料として配布した。(100部用意)

- 日 時 令和6年12月11日(月)
8:55 ~ 10:25
- 場 所 米子工業高等専門学校
アカデミックシアター(図書館棟2階)
- 受講者 米子工業高等専門学校
4年生 機械コース, 情報コース, 80名
- 高専担当 独立行政法人 国立高等専門学校機構米子工業高等専門学校
総合工学科長 森田 一弘 教授
- 講演者
伊達裕樹 (株)ウエスコ鳥取支社
・技術士(応用理学部門)
西村悟之 (株)荒谷建設コンサルタント
・技術士(建設、応用理学部門)



写真-1 講演会場風景

【伊達裕樹氏 「技術士になるまで」】

伊達氏が大学から社会人になるにあたって色々と思したことから始まり、大学での専門外の建設コンサルの地質調査部門へと至った経緯について話された。技術士試験の概要や試験問題などについての概説をされた。生涯勉強が必要であること、各種資格取得は周りの人のための役に立つものであること、働くということは誰かのために役に立てるように努力することであると、学生たちに伝えた。



写真-2 伊達氏の講演

【西村悟之氏 「技術士になってから—技術士の社旗的評価・役割と社会貢献活動」】

技術士の社会的評価について研究者と異なり実務者として最高のランクにあること、特にインフラ関係分野では技術士評価が高いことなどを解説された。技術士であることは個人評価でもあるが、企業も高く評価されている有用な資格であると解説された。また、鳥取県支部での活動、特に防災活動について紹介された。最後に技術者倫理について、杭基礎改ざんの例を取り上げるとともに、これまでの予防倫理から志向倫理により Well-being のための意思決定と行動が大切

であることを示された。



写真-3 西村氏の講演



写真-4 学生の聴講風景

学生の反応は（伊藤の所感）

講師への質問は特になつたものの、熱心に聴講されていた。

伊藤からは、最近が高専の学生が一次試験を多く受験されており、その合格者は企業では高く評価されていること、まずは技術士一次試験へ挑戦されることを期待する旨を森田教授経由で伝えた。

また、建設部門をはじめとして、機械や電気電子、化学などの多くの分野では、資格取得者に対する技術士としての評価は対外的に高く、独立技術士として開業されている方も多くおられることも伝えた。

なお、中国管内の各高専（松江、山口、呉、津山など）とは技術士会との連携協定を結んでおり、技術士会の講演などにも積極的に参加していただいている。現時点では、米子高専との連携協定は締結していないが、今後その方向に進むものと期待している。



図-1 伊達氏の講演資料表紙



図-2 西村氏の講演資料表紙